

第四章 EEM の実施実態の把握

4-1 はじめに

本章では、インターネット調査とアンケート調査に基づいて EEM の実施実態について述べる。

4-2 インターネット調査

4-2-1 調査目的

都道府県が主催・共催するイベントを抽出すること。

4-2-2 調査対象

イベント主催者（都道府県）。

4-2-3 調査方法

都道府県が主催するイベントをリスト化する作業をインターネット検索にて行った。

各都道府県が主催・共催するイベントを網羅するために、各都道府県が発表する報道発表を閲覧し、その中で「イベント・フェス・Fes・フェア・祭・まつり」のキーワードで抽出を行った。過去2年以内（2016年1月～2017年8月）のイベントのみ抽出した。

調査項目は、「都道府県名、イベント名、主催部局、担当者、メールアドレス、フォーム先 URL（またはファックス番号）、開催年月日、開催場所」である。

4-2-4 調査期間

2017年7月12日～8月31日の期間で調査を行った。

4-2-5 調査結果

47都道府県の報道発表を閲覧後、抽出したイベントの総件数は361件であった。

都道府県ごとのイベント抽出数に大きく差が出た。これは、都道府県によって、報道発表資料に載せるイベントの種類や量、広報の質などが違うことが原因と考えられる。また、イベントの内容に関係なく「イベント・フェス・Fes・フェア・祭・まつり」のキーワードで抽出を行ったため、イベントの解釈が非常に広義になっている。本研究における、EEM におけるイベントとは以下の項目とする（表 4-1）。

表 4-1 イベント種類一覧

観光PR	特産物PR	食のイベント	お祭り(縁日)
年中行事	体験型イベント	伝統芸能	大衆芸能
スポーツイベント	ネイチャーイベント	イルミネーション	ライトアップ
花火大会	講演会	講座	シンポジウム
健康福祉イベント	フリーマーケット	竣工式	開通式
地鎮祭	トークショー	その他	

4-3 のアンケート調査において、問 4 でイベントの種類を確認する項目を作成し、都道府県が開催するイベントの種類を把握する（その他を含む）。

4-2-6 まとめ

47 都道府県は、当該都道府県で行うイベント・行事に関して、広く一般に知らせる目的で、報道機関に向けて資料提供を行っている。しかし、報道機関を通じて広報したいと考える情報は異なっているようで、あまりイベントが抽出できない都道府県も存在した。

抽出できたイベントについて、環境に配慮して開催できたかどうかを自己評価してもらうために 4-3 でアンケート調査を行う。

4-3 アンケート調査

4-3-1 調査目的

都道府県が主催するイベントが環境に配慮して開催できたかどうかを自己評価してもらい確認すること。

4-3-2 調査対象

4-2 のインターネット調査で抽出したイベント 361 件のイベント主催者（都道府県）。

4-3-3 調査方法

上記で抽出したイベントの主催者（都道府県職員）に対して、イベントの基本事項を把握するためのアンケート（表 4-2, 4-3）とイベントが環境に配慮して開催できたかどうかを自己評価してもらうための環境配慮項目リストをメールで送信する。アンケートは、EEM 導入都道府県と EEM 未導入都道府県で別のアンケートを送付する。

表 4-2 EEM 導入都道府県による開催済みイベントの自己評価アンケート問一覧

問1	担当イベント名
問2	イベント開催日
問3	イベント開催形態
問4	イベント種類
問5	飲食物提供ブース有無
問6	飲食物提供ブース数
問7	環境に悪影響を与えたと感じる要因
問8	EEMをご存知か
問9	EEMを利用してイベント計画をしたか
問10	実施報告書提供の可否
問11	環境配慮項目リストへ

表 4-3 EEM 未導入都道府県による開催済みイベントの自己評価アンケート問一覧

問1	担当イベント名
問2	イベント開催日
問3	イベント開催形態
問4	イベント種類
問5	飲食物提供ブース有無
問6	飲食物提供ブース数
問7	環境に悪影響を与えたと感じる要因
問8	EEMをご存知か
問9	EEMを参考にしてイベント計画をしたか
問10	参考資料名
問11	環境配慮項目リストへ

環境配慮項目リストは、22 道府県の EEM の中身を全て抜き出し作成した（表 4-4）。
環境配慮の項目として、大きく 6 つの項目（環境配慮要件）を設けている。

環境配慮要件

- ① 自然との共生
- ② ごみ
- ③ 交通
- ④ 省エネルギー・省資源
- ⑤ 環境啓発
- ⑥ 運営体制

評価は「できた・まあまあできた・あまりできなかった・できなかった・評価不可」の5項目であり、回答方法は択一式である。

送信件数は、4-2のインターネット調査で抽出し、リスト化した361件である。

4-3-4 調査期間

2017年10月31日～12月5日

4-3-5 調査結果

アンケートの添付返信があったイベントのなかで有効回答は59件であった(表4-5)。有効回答率は16.6%である。アンケート、環境配慮項目リストともに回答、記入があったイベントのみ有効回答としている。

表 4-5 アンケート有効回答イベント一覧

都道府県名	問1
北海道	ヘルシーDoフェア
栃木県	「水の日」PRイベント
栃木県	とちぎUIJターン就職支援フェア
栃木県	とちまるショップオープン4周年イベント
栃木県	とちまるショップオープン5周年イベント
栃木県	とちまるショップクリスマスイベント
栃木県	とちまるショップ栃木県民の日イベント
栃木県	「本物の出会い 栃木」観光と食の祭典
栃木県	介護の日フェスティバルinけんちょう
栃木県	平成28年度栃木県県民の日記念イベント
栃木県	平成29年度栃木県県民の日記念イベント
栃木県	栃木県とピアリンクinとちぎの世界エイズデーイベント
栃木県	消費生活フェスタ
栃木県	フェスタinバルティ2016
群馬県	古墳情報発信イベント「古代東国の古墳文化-古墳総合調査の成果から-」
群馬県	クリスマスこどもフェスティバル
群馬県	かあちゃんの天下一品フェア
栃木県	英国大使館別荘記念公園開園記念イベント
群馬県	吾妻の農産物と田舎体験フェア
栃木県	とちぎ防災フェア
島根県	しまねレクリエーションフェスティバル
群馬県	ぐんまウオーターフェア
香川県	かがわ保育士就職フェア
埼玉県	埼玉交通安全フェア2016 IN イオンモール与野
京都府	京野菜フェスティバル2017
鳥取県	とっとりいきいきシニアバンク『生涯現役』フェスティバル「日本遺産を歩こう 米子400年の歴史と『お地藏さん』めぐり」
京都府	丹後グルメフェスティバル2017
岐阜県	第30回 岐阜県農業フェスティバル
埼玉県	2016埼玉・熊谷ラグビーフェスタ
香川県	花しょうぶまつり
山口県	やまぐち元気フェア
徳島県	とくしま発達障がい啓発イベント2017
石川県	石川県障害者ふれあいフェスティバル
島根県	みんなの未来とつながる学生フェスティバル
長野県	第20回障がい者文化芸能発表会
山口県	SL「やまぐち」号ファン感謝祭
山口県	幕末維新やまぐちデスティネーションキャンペーン大阪駅PRイベント
京都府	春の植物園フェスタ
香川県	環境フェスタ2017
埼玉県	シニアドリーム フェスタ in SAITAMA
東京都	東京アニメアワードフェスティバル2016
東京都	東京アニメアワードフェスティバル2017
兵庫県	TAJIMADOMEフェスティバル2017～春物語～
愛知県	女子のための理系☆きっかけフェスタ
東京都	第3回東京味わいフェスタ2016
東京都	第2回東京味わいフェスタ2016 in 臨海副都心
東京都	としまの銭湯から世界へ発信する美・健康・癒しのライフスタイル「SENTO×FASHION」
東京都	咄の噺(はなし)～新きコト出ずるところ～
香川県	香川用水記念公園「水辺の納涼祭」

有効回答を EEM 導入都道府県と EEM 未導入都道府県に分けると、EEM 導入都道府県によるアンケートの有効回答件数は 33 件、EEM 未導入都道府県によるアンケートの有効回答件数は 26 件であり、以下のようなになる（表 4-6、4-7）。

表 4-6 EEM 導入都道府県によるアンケート有効回答イベント一覧

都道府県名	問1
北海道	ヘルシーDoフェア
栃木県	「水の日」PRイベント
栃木県	とちぎUIターン就職支援フェア
栃木県	とちまるショップオープン4周年イベント
栃木県	とちまるショップオープン5周年イベント
栃木県	とちまるショップクリスマスイベント
栃木県	とちまるショップ栃木県民の日イベント
栃木県	「本物の出会い 栃木」観光と食の祭典
栃木県	介護の日フェスティバルinけんちょう
栃木県	平成28年度栃木県県民の日記念イベント
栃木県	平成29年度栃木県県民の日記念イベント
栃木県	栃木県とピアリングinとちぎの世界エイズデーイベント
栃木県	消費生活フェスタ
栃木県	フェスタinバルティ2016
栃木県	英国大使館別荘記念公園開園記念イベント
栃木県	とちぎ防災フェア
和歌山県	わかやま健康と食のフェスタ2017
島根県	しまねレクリエーションフェスティバル
兵庫県	ひょうご森のまつり 2017
香川県	かがわ保育士就職フェア
山口県	やまぐち木の家フェア2017
鳥取県	とっとりいきいきシニアバンク『生涯現役』フェスティバル「日本遺産を歩こう 米子400年の歴史と『お地藏さん』めぐり」
香川県	花しょうぶまつり
山口県	やまぐち元気フェア
徳島県	とくしま発達障がい啓発イベント2017
長野県	第20回障がい者文化芸能発表会
島根県	みんなの未来とつながる学生フェスティバル
山口県	SL「やまぐち」号ファン感謝祭
山口県	幕末維新やまぐちデスティネーションキャンペーン大阪駅PRイベント
香川県	環境フェスタ2017
兵庫県	TAJIMADOMEフェスティバル2017～春物語～
鳥取県	とっとり伝統芸能まつり
香川県	香川用水記念公園「水辺の納涼祭」

表 4-7 EEM 未導入都道府県によるアンケート有効回答イベント一覧

都道府県名	問1
群馬県	古墳情報発信イベント「古代東国の古墳文化ー古墳総合調査の成果からー」
群馬県	クリスマスこどもフェスティバル
群馬県	食彩フェア
群馬県	かあちゃんの天下一品フェア
群馬県	利根沼田みのりの里PRイベント
群馬県	吾妻の農産物と田舎体験フェア
群馬県	ぐんまウォーターフェア
埼玉県	埼玉結婚♡子育て応援フェスタ
埼玉県	埼玉交通安全フェア2016 IN イオンモール与野
京都府	京野菜フェスティバル2017
京都府	SKYふれあいフェスティバル2017
京都府	丹後グルメフェスティバル2017
岐阜県	第30回 岐阜県農業フェスティバル
埼玉県	2016埼玉・熊谷ラグビーフェスタ
岐阜県	福祉のお仕事体験フェスタin中津川
石川県	石川県障害者ふれあいフェスティバル
京都府	春の植物園フェスタ
新潟県	人権を大切にす県民のつどい
埼玉県	シニアドリーム フェスタ in SAITAMA
東京都	東京アニメアワードフェスティバル2016
東京都	東京アニメアワードフェスティバル2017
愛知県	女子のための理系☆きっかけフェスタ
東京都	第3回東京味わいフェスタ2016
東京都	第2回東京味わいフェスタ2016 in 臨海副都心
東京都	としまの銭湯から世界へ発信する美・健康・癒しのライフスタイル「SENTO×FASHION」
東京都	咄の噺(はなし)～新きコト出ずるところ～

アンケートの集計結果を以下に示す (表 4-8).

表 4-8 アンケート集計結果

問3	主催	共催
	45	14
問5	飲食ブース有	飲食ブース無
	27	32
問6	平均(ブース)	
	24.4	
問7	環境に悪影響を与えたと感じる要因	
	コーヒーの試食において、「紙の小カップ」を活用したため、使い捨てとせざるを得なかったこと。 空調設備の利用 印刷物(ポスター、チラシ)の作成 飲食ブースで使用される食器類 飲食ブースで使用される食器類 チラシ・ポスターの作成 露店や飲食物販売で提供された紙容器やプラスチック容器 ホールでの講演会であったため、環境への影響は特段感じていない。 チラシの印刷(350部) 試食用のようじ、容器等がゴミになること 野点茶器の洗浄 ゴミの分別を特に行わなかった 炊き出しに使用されるポリエチレン製食器の処理 水や森林に対する保全意識の高まり 参加者の送迎用バスの運行 啓発品等の梱包材 飲食提供の出店者の売れ残り(イベント当日の天候不良で想定よりも来場者が少なかったため) 飲食に使用される紙・プラスチック製の食器 ゴミ 会場までの交通手段 交通手段(自家用車使用) 屋台・模擬店の使い捨て容器の廃棄 紙媒体資料の作成、配布 来場者の内、希望する方へ配布したバルーンアートの風船 露店に使用される紙製の食器類・袋 イベント開催に関し、環境に大きな影響を与えたとはいっていない イベントにて使用した用紙等の廃棄 露店に使用される食器類 露店に使用される食器類 トークショー、ファッションショーイベントのため特段は無いが、強いて言えば、冬の時期の19時まで実施したため、照明の電気消費が挙げられる。 振る舞い酒を行っているため、食の提供から生じる 食品ブースもあり、ゴミ(紙カップ、食品残飯等)処理が大きかったが、実行委員の協力の元すみやかに分別処理が終わった。	

4-3-6 まとめ

EEMを導入している都道府県が開催するイベントも、EEMを導入していない都道府県が開催するイベントも、おおよそ半数ずつ回答を得た。

4-4 都道府県の内容ごとの環境配慮項目指数の評価

4-4-1 目的

EEMの導入・未導入に関係なく、環境配慮項目リストのなかで、達成しやすい項目・達成が難しい項目を把握するため。

4-4-2 方法

「できた：4点、まあまあできた：3点、あまりできなかった：2点、できなかった：1点、評価不可：0点」とし、イベント59件の環境配慮項目リストの内容の欄の合計点を出し、平均値を求める。…内容の環境配慮項目指数

$$\text{内容の環境配慮項目指数} = \frac{(4a + 3b + 2c + d + 0e)}{a + b + c + d + e}$$

ここに、*a*：「できた」の数、*b*：「まあまあできた」の数、*c*：「あまりできなかった」の数、*d*：「できなかった」の数、*e*：「評価不可」の数である。

4-4-3 結果

合計点の平均値が高かったもの上位10項目に関して抜き出すと以下のようになった（表4-9）。

表 4-9 合計点の平均値上位10項目

内容	平均点
会場の選定にあたっては、既存の施設を使います。	3.97
イベントで発生したごみについては、責任を持って回収し、リサイクル等が容易となるよう、分別を徹底するなど適正に処理します。	3.29
あまった印刷物等は、主催者が持ち帰り、資源化します。	3.14
印刷物には、両面印刷を励行する他、再生紙やエコインクを使用します。	2.92
パネルや看板などの複数のイベントで反復して利用可能なものは再利用を図るものとし、新規の調達を最少限に抑制します。	2.78
ゴミ箱の設置を最小限にします。	2.61
なるべくごみを出さないイベント方法を採用します。	2.59
チラシやポスターなどの印刷枚数を精査して、作成部数を削減します。	2.54
照明や空調の温度設定は、省エネに配慮します。	2.53
イベントに関して会場周辺の住民や来場者から苦情・要望が寄せられた場合は、責任体制を明確にし、即時に対応します。	2.36

大項目の「②ごみ」にあたる内容が4つ、「④省エネルギー・省資源」にあたる内容が4つと、2大項目が上位10項目のうちの8つを占める結果となった。その他は、「①自然との共生」にあたる内容が1つ、「⑥運営体制」にあたる内容が1つであった。

「④省エネルギー・省資源」のなかでも、広報物の省資源化を目的とした項目が該当していることから、広報物の省資源化は力を入れて取り組まれていることが伺える。

「②ごみ」や「④省エネルギー・省資源」の項目は、達成されやすいという結果であった。

都道府県が「できた」と回答した数が多いもの上位10項目を抜き出すと以下のようになった（表4-10）。

表 4-10 できたの数上位 10 項目

内容	できたの数
会場の選定にあたっては、既存の施設を使います。	57
あまった印刷物等は、主催者が持ち帰り、資源化します。	40
イベントで発生したごみについては、責任を持って回収し、リサイクル等が容易となるよう、分別を徹底するなど適正に処理します。	40
照明や空調の温度設定は、省エネに配慮します。	33
ゴミ箱の設置を最小限にします。	33
印刷物には、両面印刷を励行する他、再生紙やエコインクを使用します。	33
パネルや看板などの複数のイベントで反復して利用可能なものは再利用を図るものとし、新規の調達を最少限に抑制します。	32
使用する資機材の調達は、既存のものまたは県のリサイクルセンターを活用します。	27
イベントに関して会場周辺の住民や来場者から苦情・要望が寄せられた場合は、責任体制を明確にし、即時に対応します。	27
スタッフが使用するユニフォームなどは再使用ができるものを調達します。	25

大項目の「②ごみ」にあたる内容が 3 つ、「④省エネルギー・省資源」にあたる内容が 5 つと、2 大項目が上位 10 項目のうちの 8 つを占める結果となった。その他は、「①自然との共生」にあたる内容が 1 つ、「⑥運営体制」にあたる内容が 1 つであった。

これも、「④省エネルギー・省資源」のなかでも、広報物の省資源化を目的とした項目が該当していることから、広報物の省資源化は力を入れて取り組まれていることが伺える。

やはり、「②ごみ」や「④省エネルギー・省資源」の項目は、都道府県がイベントを開催するときに取り組みやすい項目が比較的に多いという結果であった。

合計点の平均値が高かったもの上位 10 項目とほとんど同じ結果になった。都道府県ができたと感じることが多い項目に関しては、できなかつたと答える都道府県は少なく、平均点が高い傾向にある。

合計点の平均値が高かったもの下位 10 項目に関して抜き出すと以下のようになった(表 4-11)。

表 4-11 合計点の平均値下位 10 項目

内容	平均点
植樹、魚の放流、風船使用等を行う場合は生態系に配慮します。	0.15
開発を伴う場合は、環境への影響を最小限にとどめます。	0.22
テレビ会議システムを活用します。	0.27
マイボトル・マイカップ・マイ箸等の食器持ち込み方式を採用します。	0.34
会場周辺の動植物の生態を十分調査します。	0.39
参加者自身のマイバッグ持参方式を採用します。	0.39
手を加えたところについては自然回復に努めます。	0.47
環境配慮について参加者にアンケートを実施します。	0.51
環境への影響に対して、代償措置を行います。	0.53
環境配慮の成果を来場者に分かりやすく示します。	0.53

大項目の「①自然との共生」にあたる内容が 5 つ、「⑤環境啓発」にあたる内容が 2 つと、2 大項目が上位 10 項目のうち 7 つを占める結果となった。その他は、「②ごみ」にあたる内

容が1つ、「③交通」にあたる内容が1つ、「④省エネルギー・省資源」にあたる内容が1つであった。

「①自然との共生」の内容が多くなったのは、植樹や魚の放流をおこなった「場合」、開発を伴う「場合」、手を加えた「ところ(=場合)」など、ある条件下でないと内容の達成が難しいものであったため、「①自然との共生」の項目が多くなったといえる。

「⑤環境啓発」の内容が他の項目より多く該当するのは、環境配慮を目的として開催されたイベントではないものが多く、環境啓発活動にまで力を入れて活動できていないと読み解くことが出来る。つまり、比較的「⑤環境啓発」の内容は、都道府県がイベントを開催するときに取り組みにくい項目であるといえる。

都道府県が「できなかった」と回答した数が多いもの上位10項目を抜き出すと以下のようになった(表4-12)。

表4-12 できなかったの数上位10項目

内容	できなかったの数
公共交通機関の利用者に対する特典を設けます。	32
環境配慮を担当するスタッフを選任し、企画段階から終了後までの環境配慮を指導・監督します。	30
ポスター、チラシ、記者発表資料等にエコイベントとして実施することを明記します。	26
環境配慮の成果を来場者に分かりやすく示します。	26
環境配慮について参加者にアンケートを実施します。	26
環境配慮に関心の高い市民やNPO等の参画やアイデアを広く募ります。	25
環境に関心のある県民と一緒に環境啓発を企画立案します。	25
環境配慮について、関係機関・市町との十分な協議・連携を行います。	24
環境負荷の少ない交通手段による来場のお願いをポスター・チラシ等の広報物に掲載します。	23
会場一斉清掃を参加者全員でイベントとして実施します。	23

大項目の「⑤環境啓発」にあたる内容が5つ、「⑥運営体制」にあたる内容が3つと、2大項目が上位10項目のうち8つを占める結果となった。その他は、「③交通」にあたる内容が1つ、「④省エネルギー・省資源」にあたる内容が1つであった。

都道府県が「できなかった」と回答した数が多いもの上位10項目からも、「⑤環境啓発」の内容が他の項目より多く該当するのは、環境配慮を目的として開催されたイベントではないものが多く、環境啓発活動にまで力を入れて活動できていないと読み解くことが出来る。つまり、比較的「⑤環境啓発」の内容は、都道府県がイベントを開催するときに取り組みにくい項目であるといえる。

「⑥運営体制」に関しては、環境配慮に関して、市民や市民団体と連携していたかどうかを問う内容に関して、できなかったの回答が多いという結果になった。環境配慮を目的としたイベントではないため、市民や市民団体と普通のイベントを環境に配慮した形で開催するといった趣向の話し合いや協力体制を取る事は現状ではなかなか難しいといえる。